



大型コンテナ用の「タンカフレッシュ UV」。



鹿島工場(佐賀県西部)の製造風景。



主力商品「タンカフレッシュ」。

## 「第2の人生は、ものづくりの事業で世の中の役に立ちたい」

商品名は、そのものズバリ、「タンカフレッシュ」。8cm×8cmの小さい紙袋が、化学製品に負けない、8日間もの鮮度保持効果を発揮する。そして何より、この商品には、竹炭ならで

「効果を実感できたときは嬉しかったです。佐賀県の茶業試験場と連携して、さらなる研究を重ねた結果、そのなかでも最も効果的なのは、嬉野茶の三番茶だということもわかったんです」

開発は一気に加速していった。微粉砕竹炭と茶葉の配合実験を行い、最も効果的な配合比率を算出し、パッケージも完成した。

その後、公益財団法人佐賀県地域産業支援センターから日本政策金融公庫を紹介され、融資が決まったことで、いよいよ商品が市場に送り出されることとなった。

「効果を実感できたときは嬉しかったです。佐賀県の茶業試験場と連携して、さらなる研究を重ねた結果、そのなかでも最も効果的なのは、嬉野茶の三番茶だということもわかったんです」

開発は一気に加速していった。微粉砕竹炭と茶葉の配合実験を行い、最も効果的な配合比率を算出し、パッケージも完成した。

入江さんは、まず手始めに竹炭による鮮度保持剤の開発に着手。竹炭の鮮度保持剤は既にたくさん市場に出回っているが、どれも化学製品より品質保持効果が劣るものばかり、「竹炭に何かをプラスすることで、より効果の向上が見込めるのでは」と考えた入江さんは、佐賀県工業技術センターや福岡大学などの専門家の技術指導を仰ぎ、日夜研究に明け暮れた。

「タンカフレッシュUV」は、今後、さらなる展開が期待されている商品です。口コミやTV・雑誌やネットで評判が広まって、現在では生産が追いつかないほど。工場を増設する計画も立てているんです」

「タンカフレッシュUV」は、今後、さらなる展開が期待されている商品です。口コミやTV・雑誌やネットで評判が広まって、現在では生産が追いつかないほど。工場を増設する計画も立てているんです」

「タンカフレッシュUV」は、今後、さらなる展開が期待されている商品です。口コミやTV・雑誌やネットで評判が広まって、現在では生産が追いつかないほど。工場を増設する計画も立てているんです」

「タンカフレッシュUV」は、今後、さらなる展開が期待されている商品です。口コミやTV・雑誌やネットで評判が広まって、現在では生産が追いつかないほど。工場を増設する計画も立てているんです」

「タンカフレッシュUV」は、今後、さらなる展開が期待されている商品です。口コミやTV・雑誌やネットで評判が広まって、現在では生産が追いつかないほど。工場を増設する計画も立てているんです」

「タンカフレッシュUV」は、今後、さらなる展開が期待されている商品です。口コミやTV・雑誌やネットで評判が広まって、現在では生産が追いつかないほど。工場を増設する計画も立てているんです」

「タンカフレッシュUV」は、今後、さらなる展開が期待されている商品です。口コミやTV・雑誌やネットで評判が広まって、現在では生産が追いつかないほど。工場を増設する計画も立てているんです」



**会社概要**  
所在地:佐賀県佐賀市富士町古湯 2655-3  
業種:鮮度保持剤製造業  
資本金:950万円  
設立:2012年3月  
従業員数:4名

## 株式会社炭化

<http://tanka-eco.info/>

竹細工などの需要の減少により放置されていた佐賀の竹林。それまで捨てられていた竹を利用して、高品質で安全な鮮度保持剤はつくられた。定年退職後からの挑戦はさらに続いていく。



**STEP 1** 創業のきっかけ  
「世の中に役に立ちたい」  
定年退職はスタート

佐賀市の中心地から車で30分ほどにある古湯温泉。ここは、県内はもちろん、福岡からも湯客がやって来る緑に囲まれた人気の温泉地である。この地に株式会社炭化はある。代表取締役の入江康雄さんは、長く建設会社に勤めていたが、かねてからセカンドライフでは、ものづくりの事業を立ち上げ、世の中の役に立ちたいという夢を持っていた。

定年退職後、入江さんは早速、佐賀県のベンチャー企業ネットワークに加入し、起業するための準備を進めた。その最中に、廃棄される竹の有効活用というビジネスプランを考案した。県内に広がる放置竹林の問題は深刻だった。県が整備を進めるなか、今なお大量の竹が廃棄されている。

「廃棄される竹を、竹炭、いわゆる炭化物にすることで、再利用できると思いました」  
入江さんは、佐賀県鹿島市にあった工場を買い取り、炭化物製造事業をスタートさせる決意を固めた。

**STEP 2** 事業スタート  
品質保持効果を向上させ、  
自然素材の魅力を再発見する

さんが立ち止まることはない。さらなる理想のものづくりを目指し、国内、海外に拠点、工場を増やし、9千億円規模といわれる鮮度保持事業の市場で着々とシェアを拡大している。

### Point of note

#### ■炭化、竹炭とは

社名にもなっている「炭化」とは、木材などの炭素化合物を、酸素を遮断して燃焼させ、揮発性の低い個体の炭素分を多く残す現象のこと。そしてできあがったものが木炭・炭で、木炭のなかでも竹を炭化させたものを竹炭といい、消臭効果、抗菌効果などに優れている。同社は、この竹炭の特性を生かして、高性能の長期鮮度保持剤を開発した。



**Profile**



**株式会社炭化**  
代表取締役  
入江康雄さん

福岡県出身。大手建設会社を定年退職後、株式会社炭化を設立。放置竹林の整備により、廃棄される竹に注目し、より効果的な鮮度保持剤の商品化を着想。